



《教育目標》 人間性豊かで、創造力・実践力に富む生徒の育成

## 全国学力・学習状況調査(3年生)の結果より

先日、新聞等で報道されましたように、3年生を対象に今年4月に実施された、全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。以下に、塩浜中の結果の分析と今後の方策をお知らせいたします。

### 1 学力調査からみられる本校生徒の特徴(強みと弱み)

#### 【国語】

全体的に県平均及び全国平均よりも高い正答率になりました。無回答率についても大変低く、どの問題に対しても前向きに取り組んでいると考えられます。特に思考力、判断力、表現力等については、平均正答率が県、国のものより上回っており、日々基礎的なことを覚える努力をしている成果が出たのではないかと思います。さらに、語彙や相手の考えを理解して自分の考えを書く問題でも、高い正答率になりました。

しかし、「表現の効果」を考える項目が弱く、今後は、会話や作文活動などで、どうすれば相手に上手く意思が伝えられるかということを考えさせる指導をしていきます。また、「歴史的仮名遣い」の問題については、口語訳と混同している生徒が見受けられるため、落ち着いて問題の意味を考えさせる習慣を付けさせます。

#### 【数学】

全体の平均正答率では、県平均及び全国平均よりもかなり高い結果で、3教科の中で一番高い正答率となりました。領域別にみても、すべての領域で平均正答率が県平均及び全国平均を上回りました。「数と式」「関数」の領域においては、特に高い結果となりました。また、すべての問題において、無回答率が低い結果となりました。これは、日頃の授業において習熟度別に少人数に分かれて授業をしており、苦手な生徒に対しても丁寧に指導したり、毎時間の家庭学習課題の取り組みを重ねたりしてきた成果だと思われます。具体的な単元で見ると、「累積度数」に関する問題で、唯一県平均及び全国平均を下回っているため、ここが本校の弱みであると考えられます。今後の授業において「資料の整理」の単元に力を入れて、用語の説明等について着実に理解をさせていきます。

#### 【英語】

全体の平均正答率では、数学と同様に県平均及び全国平均より大変高い結果でした。領域別でみていくと、「読むこと」と「書くこと」においてポイントが高くなりました。また、問題形式別でみていくと、「選択式」と「短答式」においてポイントが高くなりました。無回答率についても、全体的にかなり低くなっており、問題に取り組む姿勢は高いと思われませんが、唯一無回答率が県平均及び全国平均より高くなった問題が、「社会的な話題について短い文章で要点をとらえる」問題でした。そのため、今後の授業において、英作文や読み取り問題にその時の社会的な話題を積極的に取り入れるようにします。今回のような好結果になったのは、単元毎に振り返りを書いたり、ワークやノートを活用した家庭学習をしたりすることを大切にしてきたことが結果に影響したと考えられます。受験(受検)にも対応できるように、さらに「積み重ね」を大切にしながら取り組ませたいと思います。

この教科の弱みとしては、「書くこと」の領域の正答率が比較的低くなっています。授業の中で身近な話題について事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く活動を取り入れていく必要があると考えます。今後も、Small Talk で話した内容を英文で表す活動を続けていきます。

### 2 生徒質問紙からみられる特徴(学習、生活の状況に関して)

高い数値を示した項目は、「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「先生は分かるまで教えてくれている」でした。これらのことが、「学校に行くのが楽しい」「将来の夢や目標

を持っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」「地域の行事に参加している」といった項目で高い数値を示すなど、規範意識が強く、集団や地域、社会に対しても肯定的な態度をとっていることにつながっていると考えられます。

学習面では、「平日に1時間以上勉強している」生徒が85%程度おり、学年が上がるにつれ、徐々に家庭学習が定着してきたことが分かります。また、「授業でのPC・タブレットの活用」「PC・タブレットは役に立つ」についても高い数値を示しています。これは学校全体としてICTを活用した授業をしている成果が表れていると考えられます。しかし、「授業以外でのPC・タブレットの活用」については数値が低いので、生徒が自発的に使用していくように促していきます。

また、「勉強は大切である」「社会に出たときに役に立つと思う」と考えている生徒が多く、「授業は分かる」といった項目が高い数値になっています。

### 3 学校質問紙からみた学校の特徴(県や全国との比較)

本校は小規模校であり職員は全学年の授業を受け持っているため、すべての教員が全校生徒の状況を把握しており、連携した取り組みが行いやすいという強みがあります。ICTの活用においても、職員内で分からないことを聞き合える環境があり、日常のOJTを含めて研修を深めあっています。また、道徳を学年の枠を超えてシャッフルで行い、互いに参観することで意見を出し合って指導の工夫に努めています。

生徒においては、一人1台タブレットが配付され、健康チェックや授業の振り返りをしたり、分からないことを調べたりしているため、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という項目が高いと考えられます。

### 4 本調査問題の趣旨等を踏まえた授業改善(自校調査結果の分析から強みを伸ばし、弱みを改善する等)、家庭学習や補充学習等としての具体的な取り組み

#### ア) 授業改善について

すべての教科において、1時間のめあてを設定して、授業の最後にまとめています。また、振り返りシートを各教科工夫し、生徒の気づきや発展した考え方をその後の授業に取り入れています。しかしながら、振り返りシートでは書いているものの自分の言葉で相手に伝えることが苦手な生徒が多いため、今後は、授業内で発表したり説明したりする活動を取り入れていきたいと考えます。

職員の研修においては、引き続き四日市モデルの5つのプロセス(問題の理解→問題の特徴づけと表現→問題の解決→解決方法の共有→問題の熟考と発展)をふまえた授業づくりを各教科で取り組み、校内研修として相互参観という形をとり、問題解決能力を向上させる授業への理解を深め、授業力の向上に努めます。現在、すべての教員が教育アドバイザーまたは指導主事に授業を参観していただき、今後の授業改善につなげる取り組みをしています。

#### イ) 家庭学習の定着・工夫について

家庭学習の習慣がつくように、各教科で定期的に宿題を出し、授業で確認することを継続しています。学習習慣の定着を図るため、定期試験前にまとめて課題を与えるのではなく、こまめに宿題を出すことを心がけています。第3学年では、帰りの会の時間を利用し、3つのレベルから自分で選んだ問題集を用いて中学校3年間の基本の復習ができるように自主学習を進めています。また、教科によっては、毎回の漢字テスト、小テストを実施したり、定期的に単元テストを実施したりして自分の定着度を確認させ、定期テストに向けて家庭学習がしやすくできるような工夫をしています。

#### ウ) 補充学習等の充実について

定期テスト期間、及び長期休業中には質問日を設け、生徒の疑問が解決できる時間を保証しています。また、長期休業中には、学力の不安な生徒を対象として宿題に取り組む学習会を4回程度行い、分からない問題をそのままにしないよう職員に質問のできる状況の下で課題に取り組める日を設けています。また、この取り組みは、1学期の三者懇談会で保護者の方にも周知してご家庭と協力しながら進めています。